

特定鳥獣による被害対策

① クマ類の出没防止・出没対応に向けて

講師：一般財団法人自然環境研究センター 小林喬子

クマ類の出没対応マニュアル改訂版をもとに、出没防止と対応に関して最近の取組状況も併せて解説します。まず、出没させないこと、出没の未然防止が最も重要です。出没を防ぐためには人の生活するエリアとクマの生活するエリアを分ける、ゾーニング管理による「すみ分け」が重要です。そのため、ゾーンごとの適切な対策を立案し、実施することが、効果的・効率的なすみ分けにつながります。次に、出没後の被害防止のために、出没に備えた体制整備が必要で、関係者リストと役割分担の整理、連絡体制図、出没対応マニュアルの作成が効果的です。また、体制整備ができれば、出没を想定した訓練を実施します。出没対応訓練の実施後は、振り返りを行い、必要に応じてマニュアルの修正を行います。訓練は継続的に実施することが重要です。出没時の対応には、情報収集、注意喚起、情報共有、現場対応が含まれ、対応方法には、監視、追い払い、捕獲などの方法があります。人身被害発生時には迅速な被害者の救助、二次被害の発生防止、現場検証、関係者間の情報共有が重要で、事故原因の究明と再発防止策の検討が必要です。訓練や研修を通じて対応者の技術向上を図り、実際の対応に備えることが重要です。

② ニホンジカによる植生被害対策

講師：一般財団法人自然環境研究センター 荒木良太

ニホンジカによる人との軋轢は、農林業被害だけでなく、生態系への影響、生活環境被害へと及んでいます。ニホンジカは嗜好性の高い植物から順にあらゆる植物を採食し、生息密度が高まった場合でも植物がなくなるまで食べ続ける傾向があります。近年、農林業被害は減少していますが、アクセスが困難な奥山地域での植生被害が深刻化しており、早急な対策が必要です。具体的な対策としては、防護柵の設置や捕獲による採食圧の軽減がありますが、広域的な対策として捕獲が適している場合もあります。植生被害はニホンジカ特有の課題であり、積極的な取り組みが求められています。対策の効果は遅く、問題の長期放置は解決を困難にするため、一定の効果を得られる地域が増えてきた農林業被害対策とは異なるアプローチが必要となります。